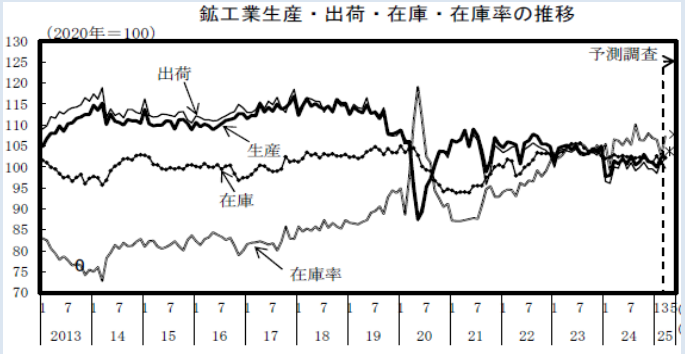
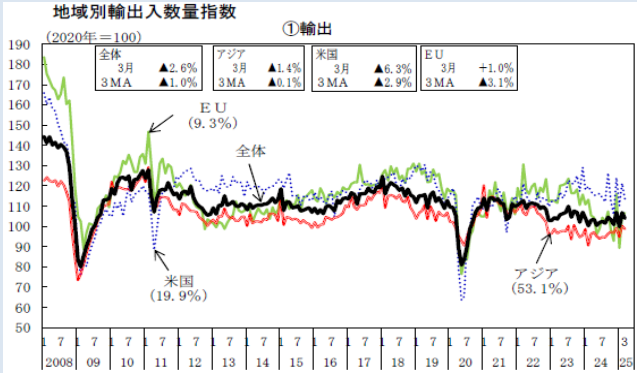
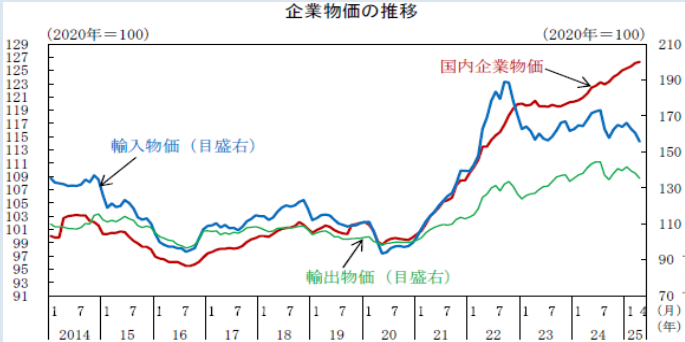
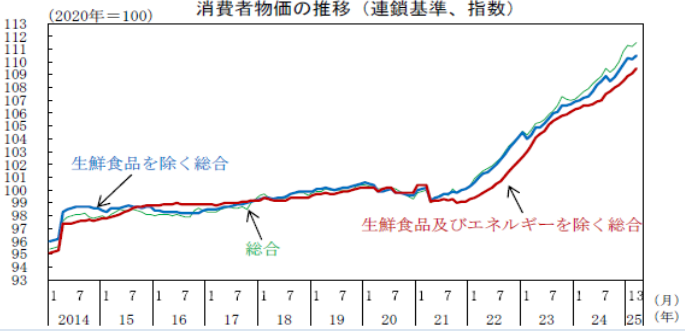


| 月例経済報告（2025年5月）

● 月例経済報告（5/22）

基調判断	(5月) 景気は、緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。 (4月) 景気は、緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。
個人消費	(5月) 消費者マインドが弱含んでいるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる (4月) 消費者マインドが弱含んでいるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2015年=100) 名目総雇用者所得、実質総雇用者所得①、実質総雇用者所得②、名目総消費動向指数（CTIマクロ）、実質総消費動向指数（CTIマクロ） 3月 名目 +0.2% 実質 +0.1% 3月 名目 ▲0.4% 実質① ▲0.4% 実質② ▲0.4% 実質①一定最終消費支出デフレーター 実質②一定最終消費支出デフレーター (除く持ち家の修繕費及CPIISD) デフレーター
設備投資	(5月) 持ち直しの動きがみられる。 (4月) 持ち直しの動きがみられる。 製造業・非製造業の設備投資（名目額） 非製造業、ソフトウェア投資（目盛右）、製造業
住宅建設	(5月) おおむね横ばいとなっている。 (4月) おおむね横ばいとなっている。 住宅着工戸数（季節調整値） 3月 108.0 万戸 3MA 88.6 万戸
雇用情勢	(5月) 改善の動きがみられる。 (4月) 改善の動きがみられる。 雇用者数、就業者数、就業率の推移 就業者数 3月：6,808万人 雇用者数 3月：6,161万人

生産	(5月) 横ばいとなっている。	
	(4月) 横ばいとなっている。	
輸出	(5月) このところ持ち直しの動きがみられる	
	(4月) このところ持ち直しの動きがみられる	
国内企業物価	(5月) 緩やかに上昇している。	
	(4月) 緩やかに上昇している。	
消費者物価	(5月) 上昇している	
	(4月) 上昇している	
海外経済	(5月) 世界の景気は、持ち直しているが、一部の地域において足踏みがみられるほか、米国の通商政策による不透明感がみられる。先行きについては、通商政策による影響の広がりから、持ち直しの動きが弱まる可能性がある。また、今後の通商政策など米国の政策動向による影響等による下振れリスクや金融資本市場の変動の高まりの影響等に留意する必要がある。	(5月) 世界の景気は、持ち直しているが、一部の地域において足踏みがみられるほか、米国の通商政策による不透明感がみられる。先行きについては、通商政策による影響の広がりから、持ち直しの動きが弱まる可能性がある。また、今後の通商政策など米国の政策動向による影響等による下振れリスクや金融資本市場の変動の高まりの影響等に留意する必要がある。 (4月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが緩やかになる可能性がある。また、通商政策などアメリカの政策動向による影響の広がり等による下振れリスクや金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。
	(4月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが緩やかになる可能性がある。また、通商政策などアメリカの政策動向による影響の広がり等による下振れリスクや金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。	